

## 逆境の今だからこそでできることを！

今月の夢追い人は、大川市料飲組合長をされている酒膳松野の松野康雄さんにお話を伺いました。

松野は榎津の東町で開業され、現在の場所に移り、20年以上営業されています。

「お昼のランチ営業を行っているお店はまだ少ないところから、ランチ営業も行っていました。」

和食を中心に季節の野菜や魚や肉など、多種多様な食材を使用した料理をリーズナブルな価格で提供しています。

最近では、フランスで修業していた息子が帰って来て、洋食の要素も加えられたことで、お客様にも喜んでいただいています。

従業員は板場に4名とホールに2名、宴会や予約が入れば学生のアルバイトの方に入ってもらっているそうです。「会席の配達を筑後市や佐賀県の三田川町、遠くは朝倉市

大川市料飲組合 組合長  
酒膳 松野 康雄 代表者  
松野 康雄 さん

までも配達することもありません。一度お店に来られたお客様が、「おいしかったからまたお願いします」とリピーターとして、配達でも利用していただいています。

利用されるお客様も大川市内外様々な地区から足を運ばれているとのことでした。

全世界で猛威をふるっている新型コロナウイルス感染症。松野さんの周りを含めた飲食業界では、新型コロナウイルスの影響はかなり大きかったのではないのでしょうか。

「もちろん他の業種も影響はあったでしょうが、飲食業は、来店されるお客様が遠退き、宴会のキャンセルやイベントの中止が相次いで、とても困りましたね。特に緊急事態宣言が出てからは、来店されるお客様が目に見えて減り、4月の歓送迎会や5月の節句、ほかにもご法事での利用が無くなってしまいました。市

外からお見えになる予定だったお客様からも大川まで行かないので中止しますと連絡が入りました。ウイルスは目に見えない分、自衛しないといけないですからね。なにより命が大事なので、来てくださいとは言えないです。とはいえ、お店に来てもらえないというのはつらかったですね」

緊急事態宣言が出されてから2週間店内飲食を中止していた期間もあったそうです。

「中国で発生した当初は、大きな影響はないだろうと安易に考えていました。宣言が出された時は、大川にも自粛の波がやってきてしまったと思います。幸いにも大川には感染者が出ませんでした。が、店内飲食を中止していた2週間はテイクアウトのみの販売の期間を設けました。夜の営業がなくなりましたが、お酒の影響がありました。お酒のやり取りでの感染拡大も大いに考えられます。お客様の





日替りかご膳（一例）

意識も高く、お酒の酌み交わしなども行われていませんし、お店としても注意を払っています。おしほりも使い捨てに変わったり、使い回しがないようグラスを多く出ししたり、箸を多く出ししたり、従業員もマスク着用と手洗い、消毒を徹底するよう気に掛けています」

緊急事態宣言が解除されてからは、お昼のお客様は戻りつつあるとのこと。

「2名などの少数のご利用でも個室をできるだけ使ってもらうようにしています。新しい生活様式やソーシャルディ

スタンスなどを考えた際、必要な対応ですね」

大川市料飲組合で組合長もされている松野さん。2週間のテイクアウトのみで営業されていた期間中には、組合長として「大川エール飯」にも取り組まれたそうです。

「コロナウイルスの影響で、テイクアウトでの営業が強いられる大川市内の飲食店が大川観光協会からの声掛けで、文化センターでの屋台販売で実施しました。最初は、10社も満たない店舗でのスタートでしたが、ゴールデンウィーク期間中、参加の店舗が段々増えてきました。1日の全体販売個数が1,000個を超え、何もあるなど、予想を大きく上回る好評をいただきました。もちろん持ち帰り用の容器や手間は掛かりましたが、何もしないよりは良かったと思います。屋台販売期間が終わってからも、各々でテイクアウトやデリバリーは続いていますし、良いPRのひとつになったとも思いますね」

今回の新型コロナウイルス感染症が大きな転換の機会にもなったそうです。

「松乃としても商工会議所の協力のもとで、経営革新計画の承認を目指して取り組んでいます。テイクアウトだけでなく、会社や団体でのイベン

トやパーティーにこちらから伺ってお食事を提供するケータリングサービスを始めよう整えているところなんです。生活様式が大きく変わったことで、イベントの形態も変化してきています。お店に来てもらうだけでなくお店が出向き、器やグラスを持って、温かい食事の提供を行っていきたいと思います」

大川市料飲組合には、現在54社が加盟されているとのこと。

「大きなパーティーがある際、各社の料理を持ち寄り、パーティーに花を添える事業をしています。しかし、新型コロナウイルスの影響で今年、大きなイベントやパーティーが中止になり、組合としてもかなりの痛手でしたね。特に今年は大川市料飲組合で60周年を迎える年でした。記念式典も準備を進めていましたが、余儀なく延期の判断をしました。コロナが終息したら来年にも、式典は行いたいと考えています。他にも、総会や研修旅行も組合の理事で話し合い、今年は中止となりました。その代わり、飲食業界がとても苦しい状況なので、少しでも組合員の力になれるように支援金を出すこととしました。みんなでこの危機を乗り越えようという気持ちで、決定後すぐに対応しました」

まだまだ先行きが不透明な状況下ではありますが、松乃では通常の店内飲食の他にテイクアウトの注文も承っているそうです。

「当日の18時まで注文を承っていますので、それまでにご連絡いただければ出来立てをお渡しできます。

昼の営業は徐々にお客様が戻って来られ、その際に『大丈夫やったね』『また来るね』と声を掛けてもらえたことは、やはりうれしかったですね。

今回の新型コロナウイルスの影響で、飲食店の営業も変わりつつあるのではないかと感じています。宴会やイベントでの店舗利用を促していくことも必要ですが、お客様の要望や新しい生活様式にも対応していく必要があると考えています」

大変な状況の中でも、しっかりと対応していきたいと話された松野さん。

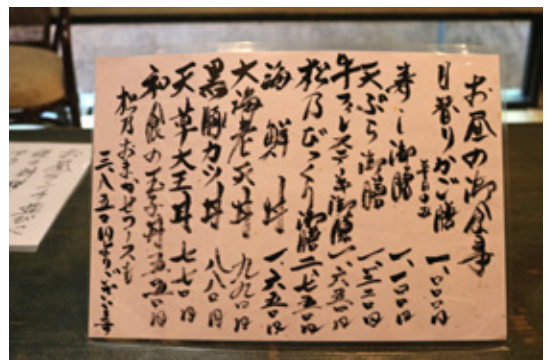
松野さんの夢は何でしょうか。

「夢というよりは目下の目標になります。まずは、この状況を乗り越えて以前のようにお客様の明るい声が聞こえる店に戻っていかたいなと思いますね。

まだまだ、夜の営業は客足が戻ってはきていませんが、コロナウイルスの時は大変やったなーと楽しく笑いなが



テイクアウト出来るお弁当



テイクアウトも出来るランチメニュー

らお客様に美味しい食事とお酒を提供できるように今を乗り越えていきたいと思っています。

大川市料飲組合の組合員、各々テイクアウトやデリバリーは続けていきますし、積極的に利用していただきたいと思いますね」